

能登半島地震・被災者支援プログラムの報告（第28回）

作成：TVAC/CS-Tokyo

■日程：2025年2月20日（木）～2月22日（土）

■ボランティア参加者数：9名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
2月20日（木）	穴水町甲地区兜公民館	19名
	穴水町諸橋地区諸橋仮設団地	17名
	穴水町中居地区住吉公民館	16名
	輪島市町野地区金蔵集会所	19名
2月21日（金）	輪島市門前地区禅の里交流館	30名
	輪島市門前地区皆月集会所	16名
	輪島市門前地区浦上公民館	27名
	穴水町志ヶ浦地区志ヶ浦コミュニティセンター	19名

■被災者の声（主なもの）

- ・先週公費解体での自宅解体が終わった。安心もしたけど、やっぱり寂しいね
- ・ようやく仮設住宅の暮らしに慣れてきた。でも、皆月に帰りたいわ。
- ・法事で使う輪島塗の食器、何組も持っていたのに全て捨てたのよ。着物も全て捨てた。
- ・皆月に友達がいるんだけど、おさよトンネルがだめだからいかれへん。
- ・役所からの支援のお知らせがメールで届いることを知り合いに教えてもらって、パソコンで書類をダウンロードしてもらった。お年寄りにはわからないと思う。
- ・去年の今頃は甲に戻ってきてなかった。この1年でいろいろあった。みんなここでは明るくしているけど、帰ったら大変なのよ。
- ・家は傾いているけど、被害認定は一部損壊で仮設に入れない。
- ・瓦がずれたところに雪が降り積もって落ちてしまう。雪下ろしが危ない。
- ・雪かきが大変。隣が住んでいないから、隣の方も雪かきしなきゃ。解体してない家もあるけど、戻ってくるのか分からない。
- ・不用品等の買い取り業者の電話が多い。ポストに解体業者のチラシはたくさん入っているが信用できるかわからない。
- ・今も幸せだけど、地震がなかったらもっと幸せだったと思う。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・人によって話す人もいれば話さない人もいる。何かをしてほしいということではなく、場所があるということが大事と感じた。
- ・ゲームや体操などのイベントも増え、参加者がサロン活動に主体的に関わってくださることが増えた。地元の方が継続的にサロンを行ってくれていることで、住民が集まってコミュニケーションが取れていることを実感した。
- ・もともと人と人とのつながりが強い地域ではあるが、一人暮らしの方も多く、今後バラバラになってしまわないか気になる。

